



平成30年度おかやま協働のまちづくり賞応募募用紙

平成30年10月19日

岡山市長 様

応募者代表 団体名 よつばの会
氏名 会長 森石 雅子

平成30年度「おかやま協働のまちづくり賞」に応募します。

<p>取組の名称</p>	<p>支援を必要とする子どもの仕事体験活動 ～よつばの会～</p>	
<p>取組の概要</p> <p>※インターネット投票を行うサイトにそのまま掲載します。 今年のテーマとの関連がわかるよう、目的（解決を目指している課題）及び取組概要を300字（句読点含む）以内で記載してください。</p>	<p>外見ではわかりにくい発達障害のある子どもが、1企業週1回1時間、半年に渡り、サポーターと一緒に仕事体験をします。 初めての場所や経験、コミュニケーションをとるのが苦手な子どもも、職場で「ありがとう」と感謝され、人の役に立つことで自己肯定感が芽生えます。保護者、地域住民(サポーター)、受入れ企業、行政機関で支え合い、定例会は一堂に会し、サポーター報告を聞きます。皆で話し、障害理解が広がり、成長を喜び、関係が深まります。障害のある子どもも社会の一員として経験を重ね、地域で知り合いを増やし、生き生きと人生を歩んでほしい。出会い、つながり、やりがいを感じる、安心して住み続ける地域を育てる活動です。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
<p>協働団体</p>	<p>岡山ネットワーク(株) (on i ビジョン)、明和製紙原料(株)、(有)PAPASS、(株)リックコーポレーション(ホームセンタータイム)、(株)ミツバファクトリー(手もみ屋本舗)、(株)池田動物園、社会福祉法人報恩積善会、(株)エブリーホームイホールディングス(すまいるエブリー)、牟佐地域町内会、サポーターの方 NPO法人杜の家、NPO法人岡山県自閉症協会、岡山シティミュージアム、岡山市障害福祉課、岡山市発達障害者支援センターひか☆りんく、岡山市立中央図書館、岡山市立岡輝公民館、岡山市立岡西公民館、岡山市立京山公民館 おかやま発達障害者支援センター、川崎医療福祉大学</p>	
<p>取組の実施期間</p>	<p>始期：平成21年9月～</p>	<p><input type="checkbox"/> 平成 年 月終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続予定 <input type="checkbox"/> 平成 年 月頃終了予定 ※該当するものに☑し時期の予定し必要事項記入してください。</p>

〔様式 1〕 協働による社会課題解決の取組の内容

取組の名称	支援を必要とする子どもの仕事体験活動 ～よつばの会～
平成 30 年度 募集テーマ	<p>やりがいと豊かな暮らし SDGs 目標 8：働きがいも経済成長も SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを</p>
テーマとの関連	<p>◎テーマと合致する貴団体の取組についてお書きください。</p> <p>よつばの会では、仕事体験を中心に、子ども達のための色々な活動を行っています。地域の宝である子どもを地域で育て、その子の将来にわたり、関わり続けていきます。</p> <p>地域の中で誰もが誰かの役に立つと実感し、人と人とが対話しつながら、それが精神的な充実感となります。</p> <p>子どもは、地域で理解を得ながら成長し、知り合いが増え、居場所が広がります。</p> <p>保護者は、障害を隠さず子どもを社会に託します。子どもの成長を実感し、可能性や社会に出た姿もイメージできます。</p> <p>地域住民は、サポートする中で子どもの成長を目の当たりにし、やりがいを感じます。発達障害を知らない人も、関わりや会話の中で少しずつ特性を知り関係を育みます。安心して活動できるように研修会を行い、子どもと自然に関われるようになります。</p> <p>企業は、“ここが子どもの仕事体験の場として役に立つなら！”と、快く受け入れて下さいます。週 1 回 1 時間とはいえ、半年間、子どものためにできる仕事を考え準備するのは、容易ではありません。同じ曜日の同じ時間で計画しますが、担当者が不在時など、他の人で対応してくださったり、別日の提示をしてくださったりしています。企業によっては、セール中や棚卸期間など、受入れが難しい時もありますが、早めに相談しながら日程を組み、サポーターを探すことができるので、慌てることはありません。</p> <p>子ども達と関わりを持つことにより、発達障害の特性理解につながったり、発達障害の人の雇用につながったりと、仕事体験の受け入れが、企業の役に立てればと思います。</p> <p>初めて活動を行う子どもは、行政機関に受け入れをお願いすることが多いです。行政機関の幅広い登録があるおかげで、子どもは自分がやりたいことができる職場を選択できます。経験する場を提供してもらえらることは何よりもありがたく、将来、色々な行政機関で発達障害の人も働くと考えたら、現場の職員の方に、長所も含めて発達障害の特性を知っていただける機会になると考えます。</p> <p>広い意味で、発達障害の子どもがその子らしく育ち成長することは、安心な地域での暮らし、社会の中での居場所づくりや、働くことに繋がり、心身ともに豊かに暮らせる大人になります。</p> <p>今回のテーマだからこそ、よつばの会は応募したいと考えました。</p>
目的・解決をはかりたい課題の状況・目標	<p>◎取組の目的、解決をはかりたい社会課題の状況把握・ニーズ把握、解決後の姿（目標としている状況）などについてお書きください。</p> <p>発達障害は、脳機能の発達が関係する障害です。発達障害がある人は、コミュニケーションや対人関係をつくるのが苦手です。不器用な人も多く、色々な経験を小さい時からすることで、できることが増えていきます。失敗経験や嫌な記憶が増えると、自信を無くし、自己肯定感が下がります。二次的にうつ状態になる、学校にいけない。という子どもも出てきます。一人一人、人と比較するのではなく、自身の力を発揮できる環境を作ること、安心して学べる場や居場所が必要です。自分が大切にされていることを感じられる、居心地の良い会、活動であるよう心がけています。</p> <p>10 歳から約 10 年間、色々な企業で、そこでしかできない作業と、どの企業でもある作業を組み合わせ、子どもの能力に合わせた仕事体験をする中で、『働くってどういうことか』</p>

	<p>を学びます。大人と会話する経験をしながら、敬語や人との距離感を学び、週1回、半年通うと20回、始めと終わりに挨拶を練習することができます。</p> <p>子どもの年齢によっては、受入れ企業まで自分で公共機関や自転車で行く子どももいます。仕事体験は、その時間内だけが体験ではなく、それに付随すること、人との連絡なども含みます。</p> <p>『少しずつでも、あきらめずに活動を続けていけば、必ず子どもは成長する！』</p> <p>子ども達の現在までの歩みに思いを巡らすと、いつの時も、皆で喜びあえたことが実感できます。これからも、子ども達の心地良い居場所であり続けることが、会の目標です。</p>
<p>取組の内容</p>	<p>◎取組の内容について具体的にお書きください。</p> <p>1 取組の対象：対象地域、対象者、対象人数など 岡山市内全域が対象。 子どもと保護者（障害の診断がある子どもが対象・ただし不登校状態の子どもも受け入れ） 地域住民（サポーター、支援者の立場の学生、岡山市内に勤務する人も含む） 地域の企業（一般企業、NPO法人など） 行政機関</p> <p>①仕事体験活動：延べ30企業(半年1クール)で活動。活動した子どもは10名</p> <p>②定例会：市内中心部公民館3館を巡回する形で開催、月一回（第3火曜日夜） 1回平均参加者数15名</p> <p>③障害者を雇用している企業の見学(バス研修も含む)</p> <p>④「働く」を考えるセミナー(研修会を含む) 10回開催</p> <p>⑤農業体験とカレーパーティー：会員と牟佐地域の住民</p> <p>⑥サポーター研修：会の支援者・保護者・一般市民</p> <p>⑦公民館文化祭への参加</p> <p>⑧よつば便り作成発行、HPとFacebookで啓発・行政機関のイベント開催時の啓発パネル展示</p> <p>2 活動内容、実施方法など（活動ごとに箇条書きで）</p> <p>①仕事体験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが保護者と相談して、受入れ企業を2社、候補として選ぶ。行きたい職種が無い場合は、企業開拓も随時行う。 ・会の役員が、企業に連絡をし、活動をしたい子どもがいること、事前に記入しているプロフィール表などを使い、子どもの情報を伝え、受け入れ可能か、受け入れられる時期など確認する。可能な場合、親子と役員と一緒に企業に行き、面接・顔合わせを行う。 ・仕事体験を行う前に、親ではない人（役員・サポーター）と一緒に、面接に行き、どういう仕事ができそうか、受入れ企業としての考えも伺いながら、作業内容を決めていく。 ・現地集合、現地解散で行っている。全員ボランティア保険に入っているが、子どもはこの保険には入れず、賠償責任を付けた傷害保険に各自加入し活動をしている。 <p>【 活動の流れ 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地でサポーターと親子が集合し、近況報告、これまでの仕事体験の報告書を見ながら、話をする。 ・子どもとサポーターは、体験開始の時間前に、職場に集合。挨拶をして、体験の準備をする。

- ・一時間、指示された仕事を行う。わからないことは随時聞くか、サポーターさんと相談して、休憩時に担当者に確認する。
- ・1時間終了した後、子ども、企業担当者、サポーターが、それぞれ報告書に記入する。
- ・記入した報告書を保護者に渡し、家庭で読んだ後、保護者も感想や連絡事項を記入し、次回体験時に、企業にコピーを渡して、振り返りを行う。

半年の体験期間終了が近くなると、次の体験先を探す。

体験の折り返し時期、終了する時期に、会として企業に挨拶に行き、本人の活動について、気になることや、成長していると感じることなどお聴きする。一つ一つを丁寧に行うことで、信頼関係を作り、それを大切に、今後も受け入れのお願いをしている。

②定例会

月1回の定例会で、一人ずつ、本人から最近の様子を聞く。次に、サポーターが最近の体験時の報告をし、保護者も近況報告をする。それ以外の活動について話し合う。セミナーや行事など、日程調整や行きたい場所についても提案し、皆で決める。会員以外の人にも声をかけ、会や活動を知らない人に知ってもらえる機会になるよう、ゲストも参加できる。近隣の大学からの卒論協力の依頼もあり、できる限り受けている。

③障害者を雇用している企業の見学(県外はバス研修)

平成23年 カバヤ食品(株)本社工場(岡山市北区御津野々口) 15名参加
 平成24年 (有)トモニー(岡山市北区祇園)見学 15名参加
 平成27年 青山商事(株)井原商品センター(広島県福山市) 25名参加
 平成28年 (株)すまいるエブリー(広島県福山市) 27名参加

④「働く」を考えるセミナー(研修会を含む) 10回開催

平成28年度 青山商事(株)井原商品センター 細川孝志さん 岡山市立中央図書館

(ESD 助成事業)

平成29年度 (株)エブリーホーミイホールディングス 三宅めぐみさん 岡西公民館
 平成30年度 日本理化学工業(株) 佐藤亜紀子さん 岡山市立中央図書館
 (平成30年度のESD助成事業 台風のため延期。12月6日開催予定)

⑤農業体験とカレーパーティー：会員と牟佐地域の住民

平成24年～ジャガイモ苗植え、草とり、収穫、カレーを作り地域の人にふるまう

⑥サポーター研修：サポーター・保護者・一般市民

おかやま発達障害者支援センター 職員に依頼
 当事者支援、サポーターが体験時に関わる中で不安に思うことが無いように、毎年開催

⑦公民館文化祭への参加

岡輝公民館：野菜の販売を通じて仕事体験活動(接客・お金の受け渡し・商品の封入など)
 岡西公民館：よつばの会の活動紹介パネルの展示

⑧よつば便りの作成と発行・ホームページとFacebook を使ったの啓発

行政機関のイベント開催時の啓発パネルの展示
 よつば便り(不定期・現在NO.25まで発行) ホームページに掲載
 ホームページ 定例会の日時や、活動情報などを掲載。活動を知らない人への啓発
 岡山市役所や岡山ドームで開催されるイベント時、啓発パネルやリーフレットを配布
 活動を紹介…受入れ企業でもあるon i ビジョンの番組内で、セミナー案内(2回)

◎取組をWEB等で告知している場合はそのURLをお書きください。

よつばの会 ホームページ http://www.geocities.jp/yotubanokai_prejob/

よつばの会 Facebook <https://www.facebook.com/groups/717905298275418/>

	団体名	この取組で果たしている役割
協働団体とその役割	岡山ネットワーク株式会社 (oni ビジョン)	受け入れ企業。ワンクール、半年・週1時間で受け入れ。 子どもに合わせてできる仕事を考えてくれる。 生番組で活動紹介を行った。知的障害を伴わない子どもにとっては、将来の仕事をイメージできる貴重な場面となった。 平成28年、セミナーの際、受け入れ企業としてパネリストで金子アナが登場。
	明和製紙原料株式会社	受け入れ企業。ワンクール、半年・週1時間で受け入れ。 子どもに合わせてできる仕事を考えてくれる。 わかりやすい仕事を準備して下さり、知的障害があっても、働ける子どもにとっては、将来の仕事をイメージできる貴重な場となった。 平成28年、セミナーの際、受け入れ企業としてパネリストで小六社長が登場。
	株式会社リックコーポレーション (ホームセンタータイム)	受け入れ企業。ワンクール、半年・週1時間で受け入れ。 子どもに合わせてできる仕事を考えてくれる。 商品の品出し、掲示物(POP)の準備、景品の袋詰めなど。商品を並べる作業をしたい子どもは多く、その作業を経験できる受け入れ企業が増えてよかった。
	有限会社PAPASS (パパス)	美容院。受け入れ企業。ワンクール、半年・週1時間で受け入れ。 接客、タオル洗濯、タオル補充、カットした髪の掃き掃除、パーマのロットを洗う、お茶を出す、雑誌の片付けなど。
	岡山シティミュージアム	受け入れ企業。ワンクール、半年・週1時間で受け入れ。 子どもに合わせてできる仕事を考えてくれる。 シティミュージアム内の資料のデータ打ち込み、DMの発送作業、コピー、など、知的(IT)作業も経験できる貴重な企業。
	株式会社ミツバファクトリー (手もみ屋本舗)	受け入れ企業。ワンクール、半年・週1時間で受け入れ。 子どもに合わせてできる仕事を考えてくれる。 本社内の掃除、書類整理、イベント商品の整理、倉庫整理など。 エレベーターや階段の清掃、事務所などの静かな場所の作業で、気づかいを学ぶ経験ができてよかった。
	株式会社池田動物園	受け入れ企業。ワンクール、半年・週1時間で受け入れ。 子どもに合わせてできる仕事を考えてくれる。 餌やり用の商品の準備、園内の掃き掃除など。 動物の餌の数を数えて、カプセルに入れる作業は、単純作業だが回を重ねるごとに早く正確に行えるようになった。
	社会福祉法人 報恩積善会	受け入れ企業。ワンクール、半年・週1時間で受け入れ。 子どもに合わせてできる仕事を考えてくれる。 清掃、利用者の方との会話、食事場所の準備片付けなど。 新たな受け入れ企業として、登録。
	NPO法人杜の家	受け入れ企業。ワンクール、半年・週1時間で受け入れ。 子どもに合わせてできる仕事を考えてくれる。 フリーマーケット、公民館文化祭の際、販売用野菜の協力。
	株式会社エブライホームイホールディングス	株式会社すまいるエブライ(特例子会社) 実際に障害のある方を多く雇用されている企業で、見学し、職場で働く経験をさせていただいた。今後も継続して見学と体験を行う予定。 ESD助成事業として、働くを考えるセミナーの講師として講演をお願いした。
	サポーターの方	岡山市内の広い範囲から活動に参加している(サポーター 6名) 仕事体験だけでなく、フリーマーケット、公民館文化祭、啓発パネルの展示、セミナーなどの行事の際も、参加協力。活動を卒業した子どもの保護者のサポーター登録もあり、支えるサポーターが増えることで、急な予定変更に対応ができる。
	岡山市北区牟佐町内会	農業体験、畑の提供、カレーパーティーへの参加と会場提供 畑作業や農業とは無縁の生活をしている発達障害の子どもたちが多く、ジャガイモの苗植え、草とり、収穫作業をした。 成果物を使ってのカレーづくり、地域の方と一緒に食べ、集いの場を年1回持つことで、発達障害の理解や居場所が広がっている。パス研修への参加もある。

	NPO法人岡山県自閉症協会	相談の電話、来局した相談者に対して、希望している情報がマッチし、よつばの会の活動や情報を提供。 実際に、見学・入会した家族や支援者あり。
	岡山市立中央図書館	受け入れ企業。ワンクール、半年・週1時間で受け入れ。 子どもに合わせてできる仕事を考えてくれる。 図書館の返却された書籍の配架作業。 セミナーの際の共催。会場提供と情報発信。発達障害の啓発に合わせて、イベントを開催し、積極的に活動紹介の場を作ってくれる。
	岡山市立岡輝公民館	受け入れ企業。ワンクール、半年・週1時間で受け入れ。 子どもに合わせてできる仕事を考えてくれる。 事務作業、清掃、チラシ配布、挨拶、防災訓練、庭野菜の手入れ 等。 セミナー・研修会の際の共催。会場提供と情報発信、受付。 活動開始時から協力姿勢が強い。 受け入れ企業の紹介もあり、3社の仕事体験活動に繋がった。 平成28年、セミナーの際、受け入れ企業としてパネリストで大倉元館長が登壇。
	岡山市立岡西公民館	受け入れ企業。ワンクール、半年・週1時間で受け入れ。 子どもに合わせてできる仕事を考えてくれる。 事務作業、清掃、チラシ配布、挨拶、防災訓練、庭野菜の手入れ 等。 セミナー・研修会の際の共催。会場提供と情報発信、受付。 発達障害の主催講座や、ESDカフェでよつばの会の紹介場面をいただき、結果、サポーターが増えた。
	岡山市立京山公民館	定例会会場としての利用。本人活動として、買い物と調理実習で利用。 公民館の職員さんのアドバイスをいただき、(株)池田動物園の受け入れ企業開拓をすることができた。
	岡山市障害福祉課	障害児仕事体験事業として、障害者のしおりに活動を掲載。 障害者就労月間の市役所パネル展示、就労関係や自立支援協議会が開催するイベントセミナーの際には、情報発信や案内を置くなど協力。 受け入れ先となる行政機関の一覧があり、新たな希望先を考える時の情報源となる。
	岡山市発達障害者支援センター ひか☆りんく	発達障害のある家族の相談内容に、希望している情報がマッチすれば、よつばの会の活動や情報を提供。 実際に、見学・入会した家族や支援者あり。
	おかやま発達障害者支援センター	一般市民向け「発達障害の理解講座」の講師。 会で支援を行っている市民サポーター・家族が学びたいテーマについて勉強会の講師。
	川崎医療福祉大学	定例会、イベントの時に、子どもたちに寄り添いサポートしてくれる学生を募集する際の協力。毎年、2名程度の学生が、一年を通して、継続して参加してくれている。
取組の工夫 取組の特徴	<p>◎地域資源や人的資源の活用など工夫した点をお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポーターについて 週1回1時間、一人が月4回の活動をします。4人の子どもが同時に活動をしていた時期があり、曜日が重ならないように、サポーターが一人の子どもに偏らないように、工夫をしていましたが、どうしても都合がつかず、活動できない子どもが出たときがありました。 その時に、わが子以外の子どものサポーターに保護者の会員がなることを、保護者自身が提案しました。実行してみると、わが子以外の子どもをサポートすることで保護者に変化が現れ、障害を理解することができ、褒めることができるようになりました。仕事の都合や、子どもが成長して活動を終了し会を離れた保護者が、サポーターとして登録してくれている現状があります。 ・受け入れ企業について 子どもがやりたい仕事があっても、飛び込みで企業に受け入れをお願いすることは、なかなか難しい状況がありました。公民館の職員さんを通して、会の紹介や、活動した 	

	<p>い旨を事前に打診してもらったこともあります。日ごろ利用しているお店でここなら頼めそうと、勇気を出して開拓した企業もあります。そういう一人一人が活動に繋がる動きをしてきたことで、受入れ企業は増えてきました。会や活動について、話す場があることから、色々な受け入れ企業の開拓に繋がっていきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な団体や人との繋がりについて よつばの会は、地域や日ごろの活動は違うけれど、公民館に集う機会が多い人たちが参加していた、「ハナショーおかやま」という、岡山市限定のSNSがきっかけで出会った人たちを中心に、活動に参加したい親子と活動を応援したい市民が立ち上げた会です。そこから、牟佐地域の農業体験にも繋がりました。 <p>◎取組の特徴やアピールポイントをお書きください。</p> <p>活動は、週1回1時間を半年間にわたり、大人の付き添いのもとで障害のある子どもが、地域の企業や行政機関で仕事体験をするというシンプルなものです。</p> <p>発達障害の子どもは、一人一人違います。まずは、定例会で、会員同士が顔なじみになり、少しずつ言葉を交わし、信頼関係を築きながら、仕事体験につなげていきます。丁寧で時間がかかる作業ですが、そこを省かないことで、誰一人、仕事体験を途中で投げ出したり、辞めたいと言わずに活動ができています。</p> <p>家族以外の人を信頼し一緒に過ごせること、言葉でも行動でもよいが、分からない事や、困っている事を、相手に伝えられる力を養うことが大切です。</p> <p>また、公民館の職員さんや会員の情報から、障害に対して理解があるのでは、という企業を中心に受け入れ先を探しました。人とのつながりから開拓した企業では、定期的に受け入れが難しいということはあっても、企業にとって良いタイミングでの受け入れを考えてくださり、誰もが子どもの良いところを見よう、子どもにとって良い活動にしたい。という気持ちで取り組んでくださっています。</p>
成果・効果	<p>◎取組を通じて得られた成果や、解決した社会課題の状況、また関連した地域への効果や変化などをお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aさん テレビ局の情報番組のテロップを入力する作業、マイクの電池入れ替え、マイクテスト、出演者の方へのお茶出しなど、普段ではできない経験を多くさせてもらいました。最初は小さい声での挨拶も次第に大きくなり、マイクテストもうまくできるようになりました。入力したテロップを自宅のテレビで観る機会があり、とても嬉しかったと話してくれました。 ・Yさん 小学校5年から活動。地域の和菓子屋さんにて初めて行った日、涙が出る場面があり、心配しましたが、最後までやりました。緊張と不安な気持ちだったようです。保護者が思うより手先が器用で、色々な新しいことにもチャレンジしました。シャイで褒められるのが苦手でしたが、褒め言葉にも少しずつ慣れ、毎週頑張っていました。 ・Mさん 公民館で体を動かす作業をいくつも経験しました。普段使ったことが無い工具も、使い方を習い上手にできました。自分の祖父と同じ年齢でサポーターをしてくれるNさんを尊敬し、信頼してサポートを受けながら体験を続けることができました。年代を越えた地域のつながりが生まれ育ちました。 ・Iさん 職場の上司の方がおられる部屋に最初に入るとき、挨拶がうまくできないと言いましたが、何度も経験し、サポーターからのアドバイスもあり、上手に挨拶ができるようになりました。高校受験で大変役に立ったと保護者の方から伺いました。 ・Hさん 重度の知的障害もあり、登録している事業所で体験するのが良いか、どんなことができるだろうと、会の支援者も含め、話し合いました。させたい仕事を作るという考えから、

	<p>新しい企業への受け入れをお願いしました。ホームセンターで半年間の活動を行い、この10月で1クールが終了します。次は、新たな出会いやこれまでの力を試す機会にしたいと、保護者の思いを大切に、皆でどこに行くのか、相談しています。</p> <p>・ Kさん 人前で会話をするのが苦手でもとても慎重なタイプの子どもでしたが、あることがきっかけで受け入れ先の方と意気投合しました。その後は、スムーズに仕事体験が進み、緊張もほぐれ、会話も以前よりできるように変化しました。今 Kさんは、アルバイトをしています。仕事体験は卒業しましたが、それも成長してこそ嬉しいことで、会のメンバーとして、とても喜んでいきます。</p> <p>など、一人一人、色々な場面でエピソードがあり、成長があります。もちろん、どうしたらよいだろうと思案する場面もありましたが、一人で考えるのではなく、会の中で、サポーターや、保護者、支援者や受け入れ企業の方も混ざって話をする中で、良い方向に進めることができました。</p> <p>これまで、仕事体験活動先を決めて活動を実施したが、途中で投げ出したり、辞めたりした子どもはいません。受入れ企業から苦情が来て、やむなく体験を中止にしたということもありません。</p> <p>将来の仕事や就職にもつながることですが、本人がやりたい気持ちがあること、企業が受け入れる気持ちがあること、その中で、丁寧に見守り支える地域の大人サポーターがいること、保護者が活動をポジティブに捉え、子どもを安心して社会に託すこと、全てが揃って、この活動が成り立っています。</p> <p>成果や効果は短期間では見えにくいですが、長い目で成長を見守っていくと、もてる力を発揮して、社会で自立して生きていく姿が想像できます。障害があっても、生きる力を身に着けた大人が増えることこそ、成果であり、効果なのではと捉えています。</p>
<p>今後の活動展開など</p>	<p>1回1回の積み重ねを大切にしていける活動ですので、「こんな仕事してみたい」「この会社に行って仕事体験したいなあ」「(具体的に)スーパー品出しの仕事をしたいです」など、子どもがやりたいこと、憧れの仕事を、保護者や周りの大人の意見も参考に、楽しくつづけられる仕事体験事業を、これからも継続して行っていきたいと思えます。</p> <p>参加している子どもの中には、何社も何年も継続して仕事体験活動をしている子どもがいます。</p> <p>仕事体験活動をいったん休止し、大学受験やアルバイトを開始した子どももいます。</p> <p>入会当初は、一言も言葉を発しなかったけれど、少しずつ受け入れ企業やサポーターと話すようになり、今は自信をもってどこでも会話している子どももいます。</p> <p>成人になり、仕事体験はしていないけれど、居場所になっている人もいます。</p> <p>部活だと思って週1回活動してみよう。アルバイトのイメージが持てるかもしれない。こんな仕事を体験してみたい。と考える、お子さんと保護者の方。</p> <p>一人でも、月に1回でも、私でよければ参加すると表明して下さる市民の方。</p> <p>今登録していないジャンルの企業で、受け入れを考えてくださる企業。</p> <p>会では、仕事体験を希望する子どもと保護者、子どもに寄り添い見守る地域の大人のサポーター、受け入れ企業、行政機関の受け入れ先など、随時募集しています。</p> <p>しかし、こういう活動があること自体、まだまだ知られていないのが、実情です。</p> <p>よつばの意味する…子ども、保護者、受け入れ企業、地域住民、行政機関。どの葉も活動には欠かせません。仕事体験活動を目的とする…新しいよつばの会が、市内、地域のあちこちで立ち上がることが待ち遠しいです。少しずつ広がって、一人でも多くの子どもが、仕事体験をする機会に巡りあえれば、と考えて活動を続けていきます。</p>

よつば便り



「仕事体験活動」

よつばの会では、現在4人の子どもたちが、仕事体験活動を行っています。1週間に1回、1時間、サポーターさんと一緒に同じ職場での仕事体験活動を半年間継続して行う。簡単なことではありませんが、子どもたちも、保護者も、サポーターさんも、企業の皆さんも、会のみならずこの活動に一生懸命取り組んでいく中で、色々なことがみえてきました。

多田 友

『仕事体験活動報告の巻』と題して、よつば便りにて報告いたします。

「丁君の仕事体験活動」

●仕事体験 保護者感想
昨年8月から明和製紙原料株式会社の仕事体験が始まりました。よつばの会での仕事体験は、こちらで四つ所目になります。年度の知的障害があるので出来る仕事はあまりないのかも…と、よつばの

会に入会した当初からある程度、の覚悟はしていました。しかし、ありがたいことに私の予想を覆し、新しい可能性や発見があり、出来ることが増えていくのです。明和製紙原料株式会社の仕事は古紙の分別です。とうかな々と、始めてみた古紙分別の仕事体験は多までの仕事体験の中で一番回っているようです。

仕事体験の素晴らしいところは職場の方との関わり、サポーターとの関わり、多まて関わることでなかった人の中で親では感じられないものを、子供は感じられることだと思えます。どんな子供にも仕事体験というチャンスを与えてくれた企業の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。明和製紙原料株式会社の仕事体験は、2月いっぱいまで終了してしましますが、今度はどんな出会いと、どんな可能性が待っているのだろうか。と楽しみにしています。

●本人の感想

・明和製紙原料株式会社で何している？

「投げてるね」

本人、笑顔。(古紙分別で紙を分ける時コンテナに投げ入れてます)

・仕事体験楽しい？

本人、無言。(「いいえ」)



・仕事体験また行きますか？

「はい」

本人、ちびっと困った顔。仕事体験でない日に無言でした。

●君のサポーターさんへの

丁くんは、穏やかな性格でま

えられた仕事にはまじめに取り組みます。前回の池田動物園での手先を使う細かい作業から、現在の明和製紙さんでは体を使う作業に変わりましたが、すべに把握できてはすっかり慣れて、ちびっと物足りないくらいになりました。私が思うに、彼には力仕事の方があっていいです。

いつも感心するのは、お母さんがお子さんにとっても丁寧に接し、熱心にお子さんに向き合っておられることです。これは仕事体験をする上で、とても大事なことだと思えます。私も自分の息子の大事な時には、力いっぱい頑張りました。

今回の仕事体験もあと少しで終わりますが、最後まで安全に作業をすることができ、見守ることができたかなと思えます。頑張ってくださいねー

熊本 モニカ



「君の仕事体験活動」

●仕事体験 保護者感想
昨年1月の定例会からよつばの会に参加しています。息子君、現のスキルも上がってきています。在中学3年生で特別支援学級の備忘録に「君の仕事体験活動」が掲載されています。初めての経験を通じて、色々なことを学びました。最初は、君が慣れず、少しづつでも視野が広がっていき、色々なことを学んでいきました。



●君のリポーターさんへの

4回目の「仕事体験」場所は、中央図書館で送迎された本を本棚に戻す作業でした。サポーターの方が「君の仕事体験活動」が掲載されています。初めての経験を通じて、色々なことを学びました。最初は、君が慣れず、少しづつでも視野が広がっていき、色々なことを学んでいきました。

1週間に1回、1時間、サポーターさんと一緒に同じ職場での仕事体験活動を半年間継続して行う。簡単なことではありませんが、子どもたちも、保護者も、サポーターさんも、会のみならずこの活動に一生懸命取り組んでいく中で、色々なことがみえてきました。

●君の仕事体験活動「君の仕事体験」が掲載されています。初めての経験を通じて、色々なことを学びました。最初は、君が慣れず、少しづつでも視野が広がっていき、色々なことを学んでいきました。

仕事体験は11月より池田動物園で週に1回1時間ほど行っています。仕事内容は、各部屋の黒板に予定を記入したり、圖書の整理をしたり、日誌を記入したり。最初は緊張感でいっぱいでしたが、次第に笑顔が広がり、挨拶ができるようになりました。今では、わからないことを積極的に質問し、報告してくれるようになりました。

熊本 モニカ

協力企業・団体

- 岡山シティミュージアム
- 岡山ネットワーク株式会社 (oniビジョン)
- 有限会社PAPASS (美容院)
- NPO法人 杜の家
- 明和製紙原料株式会社
- 池田動物園
- 株式会社ミツバファクトリー
- 株式会社リックコーポレーション
- 社会福祉法人 報恩積善会
- 岡山市施設
(公民館・図書館・ふれあい公社など)
- 岡山市内公民館 (岡輝公民館・岡西公民館)
- 岡山市立中央図書館



子どもたちのやってみたい仕事体験を実現できると、企業開拓を行っています。地域で受入れを検討いただける企業がありましたら、ご紹介下さい。

企業からのメッセージ

岡山ネットワーク株式会社 (oniビジョン)

担当：金子陽子さん

障害のある子どもたちを、これまでに4人受け入れ、仕事体験をしていただきました。

子どもたちのやりたいことや好きなことは何か、仕事体験しながら、一緒に見つけたいと思っています。週1回の1時間はあっという間ですが、職場の大切なスタッフの一員です。

これまでに来てくれた子どもたちはみんな純粋。ご縁に感謝の気持ちでいっぱいです。

入会のご案内

『よつばの会』は、平成21年9月から、初めての場所や行動、コミュニケーションが苦手など、見た目では分かりにくい障害のある子どもたちを中心に、仕事体験活動をしています。子どもの好きな事や興味がある事、やってみたい仕事を、サポーターの付き添いのもと体験できるので、半年間という長い期間活動し、楽しかった!と、笑顔で話してくれます。

障害のある子どもがいる家庭と、地域の人が出会い、障害や子どもたちの将来について話せる場が生まれています。よつばの会の活動は、たくさんの人の力を必要としています。人と人とのつながりの輪、皆さんも一緒に活動してみませんか?

【構成メンバー】

- ・支援を必要とする子ども
- ・保護者
- ・地域の住民
- ・子どもを受け入れる協力企業
- ・公民館や学校



イラスト：伊丹 君江

会員種別と会費

○会員種別

- ①正会員 (家族会員) ※親子・家族での入会
- ②正会員 (親会員・一般会員)

○月会費 (年度はじめに1年間分を集金)

- ・正会員 (家族会員) 800円 (年9,600円)
- ・正会員 (親会員) 400円 (年4,800円)
- ・正会員 (一般会員) 400円 (年4,800円)

※途中入会した方は、入会申込み月から集金

問い合わせ先

よつばの会への申込み・お問合せは

メールアドレス: yotubanokai@gmail.com

岡山市ESDプロジェクト活動支援助成金で作られています。



岡山ESDプロジェクト参加団体

よつばの会

保護者 受入れ企業
子
地域住民 行政機関



岡山市ESDプロジェクト参加団体
岡山市障害児仕事体験活動助成団体

仕事体験活動

仕事体験活動は、支援を必要とする(障害のある)子どもが、地域の大人(サポーター)の支援を受けながら、地域の企業や行政施設に行き、働く経験を積み重ねる活動です。

障害のある子どもを家庭に隠すのではなく、社会の中で活動を通して、地域に出していきます。

自己肯定感が持ちにくい障害のある子どもには、仕事体験で役に立ち、ほめられる経験をする中で、自信を持ち、自分が働く事や、大人になった理想の姿を学ぶ機会ができます。

仕事体験活動をする際の条件

- ・10歳～活動可能で、入会時に未成年、または学生で、障害のある子どもが対象です。
 - ・週1回、1時間、最長6か月間、同じ受け入れ先で仕事体験活動を行います。
 - ・大人のサポーターが見守りの目的でつきます。
- ※療育手帳を持たない「広汎性発達障害」の児童の参加が増えています。

サポーターをしての感想♪

仕事体験活動をきっかけに、人と人とのつながりが広がっていきます。

往々にして話すことが苦手な子どもたちと、会話ができだすと、楽しくなってきます。一人一人の子どもたちと、その子に必要なと思われる約束をしながら活動を積み重ねていく中で、成長を見守ることが、生き甲斐になっています。

サポーター 長光新一

仕事体験活動の流れ

①



【サポーターと合流】

サポーターと職場の前で、仕事体験活動開始の10分前に待ち合わせ、近況や最近の体験の様子を共有する。

②



【職場に到着】

毎週約束した時刻に職場に行き、職場の担当者から「今日の仕事」を指示され、作業を行っていく。

③



【1時間集中して働く】

困ったときはサポーターがアドバイスしてくれるので、安心して仕事ができる。

④



【仕事体験 終了】

終わりのあいさつをし、評価表に記入してもらい、頑張ったところを褒めてもらう。

⑤



【現地解散】

保護者へ今日の様子、良かった点、受け入れ先からの連絡事項など、報告する。

その他の活動

★定例会

日時：毎月第3火曜日 午後7時～9時
場所：岡西、岡輝、京山公民館を利用
※子どもを真ん中にして、話し合う集まりです。

★運営会議

会の運営上、話し合いが必要な時に随時開催

★啓発活動

(セミナー・HP・よつば便り・テレビ出演など)

【ESD関連事業セミナー】

“働く”ことが人と人をつなぐ
～仕事体験が育むもの～
青山商事(株)井原商品センター 副センター長
細川孝志 氏を迎えて など

★農業体験、カレーづくり

ジャガイモの植え付け、草取り、収穫した野菜を使ってのカレー作りなど、農業体験を通して、地域協力者の方と交流しています。

★障害者雇用企業の見学 (バス研修)

平成25年 太陽公園と姫路城の見学
平成26年 神戸海洋博物館とインスタントラーメン発明記念館見学
平成27年 青山商事(株)井原商品センターと福山市立動物園見学
平成28年 樹すまいるエブリイと笠岡カブトガニ博物館見学

よつばの会の活動紹介

- ★会ホームページ：(よつばの会岡山で検索)
http://www.geocities.jp/yotubanokai_prejob/
 - ★会ブログ：<http://yaplog.jp/prejob-yotuba/>
 - ★フェイスブック：よつばの会
 - ★よつば便り (年3回程程度の活動報告便り)
- どうぞご覧下さい。